

## 平成22年度第7回応用セラミックス研究所教授会議事要録（案）

日 時 平成22年11月17日(水) 午前10時00分～11時20分

場 所 応用セラミックス研究所1階会議室

出席者 岡田所長, 神谷, 伊藤, 原, 真島, 佐々木, 東, 和田, 田中, 笠井, 林(静),  
笹川, 松本, 中村, 川路, 松下, 安部, 篠原, 坂田, 山田, 阿藤, 須崎, 林(克)の各教員  
定足数の確認 現在員27名, 公務出張4名, 定足数16名, 出席者23名で成立

### 配布資料

○ 平成22年度第6回応用セラミックス研究所教授会議事要録(案)

1. 応用セラミックス研究所長意向表明者に関する投票管理委員会の設置について
2. 特任助教の称号付与について
3. 平成23年度共同利用研究の募集(案)について
4. すずかけ台地区近隣の医療機関情報について
5. 学則及び関係諸規則の改正案について
6. 平成22年度第7回応用セラミックス研究所企画運営委員会議事要録(案)
7. 平成22年度第8回応セラ研安全衛生委員会・第8回セラ研ブロック安全衛生委員会  
議事要録(案)
8. 共同利用・研究支援室報告

○ 議事に先立ち, 9月17日採用の外国人客員教授「李 英民」氏より挨拶があった。

また, ライフ・エンジニアリング機構に関して同WGメンバーの松下准教授から資料1に基づき説明があった。

### 議事要録の確認

平成22年度第6回応用セラミックス研究所教授会議事要録(案)を承認した。

### 審議事項

1. 応用セラミックス研究所長意向表明者に関する投票管理委員会の設置について  
所長から, 資料2に基づき, 本委員会の設置について説明があり, 審議の結果, これを承認し,  
投票の結果, 委員5名を選出した。
2. 特任助教の称号付与について  
所長から, 資料3に基づき, 本称号付与について説明があり, 審議の結果, これを承認した。
3. 平成23年度共同利用研究の募集(案)について  
所長から, 資料4に基づき, 本募集(案)について説明があり, 審議の結果, これを承認した。  
なお, 誤植などの訂正意見等がある場合は, 今月中に連絡願いたい旨の要請があった。

#### 4. 客員、準連携客員教員選考の状況について

原同選考委員会委員長から、本選考の状況について、以下のとおり説明報告があった。

- ①「客員教員」については、既に応募を締め切り、今後選考を行う予定。
- ②「準連携客員教員」については、「新規」および「継続」のいずれについても、12月の教授会で選考する予定であるので、12月1日の企画運営委員会に間に合う様に、申し出願いたい。  
また、本件については、再度メールにて周知する。

#### 5. すずかけ台地区近隣の医療機関情報について

所長から、資料5に基づき、本医療機関情報について説明があった。

#### 6. 学則及び関係諸規則の改正案について

所長から、資料6に基づき、本改正案について説明があった。

### 諸会議報告

所長から、諸会議報告については、所内のホームページに掲載しており、事前に確認していると思うので、質問があればこの場で受ける旨の説明があった。なお、内容について注目すべき点は赤字で示し、コメントについては緑字で記している旨の補足説明があった。

#### 1. 教育研究評議会（11／5）

##### 1) 新図書館オープンについて

現在の図書館は、H23年8月10日～9月25日までの間閉館。5月28日には、閲覧室がオープンし、9月26日には新図書館がオープンする予定。

##### 2) 国立大学法人東京工業大学学長選考会議委員の選出について

資源化学研究所長が辞任したことに伴い、岡田評議員が選出された。任期は、前任者の残任期間H23年3月31日まで。

##### 3) 副学長の任命について

国際担当副学長として、教育工学センターの西原明法教授が任命された旨の報告があった。  
なお、人権担当、安全担当の副学長については、まだ発表されていないとの補足説明があった。

##### 4) 栄誉教授について

「栄誉教授」新設に向けて、現在検討中である旨の説明報告があった。

#### 2. 部局長等会議（10／22）

##### 1) 学長の任期に関する規則（案）について

担当理事・副学長から同規則の一部改正を検討している旨の説明があった。  
部局長等からの意見も踏まえて、次回の選考会議で審議する予定。

2) 固定資産の実査について

台帳登録 50 万円以上の物品に対して調査がある。実施期間については、H 2 2 年 1 1 月～H 2 3 年 1 月を予定。

3) 教員総覧について

原稿の校正方式が、今年度から T2R2 データベースを用いる方式のみになった。

4) 先端的低炭素化プログラムの応募状況について

本プログラムの応募状況については、全国 6 6 8 件の応募があり、件数では本学が最多であった。

・部局長等会議（1 1 / 5）

1) 平成 2 2 年度の補正予算案について

平成 2 2 年度の補正予算案について、本学からは 3 件が対象になっている。

2) A S P I R E リーグについて

香港科技大、韓国科学技術院、南洋理工大学、清華大学の教員との共同研究に対して、A S P I R E 研究 Grant (上限 5 0 0 万円、3 件、1 年間) の制度ができた。

3) 運営費交付金業務達成基準を利用した年度を越えての予算執行制度について

政府調達規模の契約の事業や 1 年間で終わらないような研究教育プロジェクト等で、年度内に達成が難しいものには、翌年度への予算を持ち越し執行出来る。ただし、持ち越しのできる期間は、最長で 2 年間である。

4) 学術研究懇談会について

学術研究懇談会（旧帝大、本学、筑波大、早稲田、慶応の 11 大学の研究担当副学長の会）において、桜井財務副大臣との会合があった。

3. 経営協議会（1 0 / 2 5）

1 0 月 2 5 日の経営協議会について、説明報告があった。

4. 5 部局長懇談会（1 0 / 2 2）

1) 調整池上部のウッドデッキ計画について

本計画に対して説明があり、意見交換を行った。その結果、次回の 5 部局長懇談会で継続検討することとした。

2) 応用セラミックス研究所における誘導表示及び建物表示の設置について

本誘導表示の設置が承認された。

（本説明に対して、教授会の席上で「建築物理研究センター」案内表示の追加要請があり、了承された。）

・ 5 部局長懇談会（11 / 5）

1) すずかけ台地区 J 3 棟工事計画について

本建設工事について説明会が開かれる。

2) 調整池上部のウッドデッキ計画について

本計画について継続審議の結果、当初計画を一部修正の上、本年度着工することになった。

3) すずかけ台ハウス用地の取得に関する要望書について

すずかけ台地区の 5 部局長連名で、学生と研究者の両者が利用できる形での運用を含め、その利用が可能となるよう要望書を担当理事・副学長に提出した。

4) 大岡山地区におけるすずかけ台所属教員の控室について

本控え室の復活要望書を提出することとした。

（本研究所から、すずかけ台の駅から東工大すずかけ台キャンパスまでをトンネル結ぶ計画については、再度、5 部局長懇談会に諮るよう要請意見があった。）

5. 5 研究所長懇談会（11 / 5）

本学の研究活動の現状などに対して意見交換した。

6. 四大学連合附置研究所長懇談会（10 / 27）

今年度の入場者数は 300 名以上で、好評であった。

7. 国立大学附置研究所・センター長会議（10 / 28, 10 / 29）

5 月に開かれた全体会議に引き続き、今回の第 1 部分科会でも全国共同利用・共同拠点研究所・センターで構成している全国共同協議会との関係について審議し、当面現状のままとすることとなった。

文部科学省の研究基盤課長から平成 23 年度の概算要求の状況について説明があった。

8. 企画運営委員会（11 / 4）

その他の会議報告と重複する事項のみなので説明は省略する。

9. 応用セラミックス研究所安全衛生委員会・応用セラミックス研究所ブロック安全衛生委員会  
（11 / 10）

岡田同委員長より、資料 8 に基づき、以下の事項について説明報告があった。

1) 停電時の緊急連絡網について

2) ATM 前等（R 3 棟横も含む）のハンブについて

3) エレベータでの液体窒素の運搬。部局対応に関して。

4) 夜間病院のリストについて

5) J 1 棟横駐輪場の設置許可があり、駐輪可能範囲が決定したことについて

6) アジ化 Na についての取扱注意喚起メール発信について

7) 労働基準監督署へ設置計画提出が必要な機器について

8) 研究所内のリスク低減対策委員会の活動状況について

10. 共同利用・研究支援室会議（11／4）

伊藤同支援室長から、資料15に基づき、次の通り説明があった。

- 1) 平成22年度共同利用研究予算について  
執行状況等について説明があった。
  
- 2) 運営費交付金業務達成基準を利用した年度を超えての予算執行制度について  
本制度を利用した共同利用の設備導入を検討している。
  
- 3) 要覧作成で必要な詳細データの収集について  
本データは要覧以外にも種々の調査にも必要なもので、速やかなる対応をお願いしたい。
  
- 5) 平成22・23年度非常勤研究員について  
来年度の募集については今年度採用した非常勤研究員の動向も考慮し、現時点ではペンディングにしておく。

以上